

第26回岐阜大学臨床セミナー 教育講演

期日：2013年1月27日（日） 15：00～18：00

場所：岐阜大学 講堂

<http://www.animalhospital.gifu-u.ac.jp/>

猫の難治性歯肉口内炎の治療

－エステル型脂肪酸複合体 (EFAC) と抜歯の効果－

渡邊一弘

岐阜大学応用生物科学部獣医外科学研究室

はじめに

猫の難治性歯肉口内炎は、猫にみられる歯肉・口腔粘膜の慢性炎症性疾患である。細菌やウイルス、免疫反応など複数の要因が関わっていると考えられているが、発症の原因は不明な点が多く、小動物臨床医を悩ませている。症状としては、激しい疼痛に由来した流涎、採食困難（食べ物を落とす、ドライフードの拒否など）、嚥下困難、食欲低下、体重減少、開口拒絶や口臭、口腔内出血などがみられ、口腔内は歯肉、口峽部粘膜、咽頭、舌に発赤、腫脹、潰瘍があり、口峽部を中心とした肉芽組織の増殖も確認される（図1）。本疾患に対する治療法は、スケーリング、抗菌薬、免疫抑制剤の投与などがあげられているが、いずれも完治が難しく、現在のところ、全臼歯あるいは全顎抜歯が最も効果的とされている。しかしながら、猫の抜歯の多くは外科的抜歯が適応され、技術的問題、設備的問題、外科的侵襲と麻酔という猫への身体的負担、飼い主の経済的負担といった問題がある。

このようなことから、演者は以前にクリニックノート 81号（2012年4月号）において、猫の難治性歯肉口内炎の治療法として内科的治療、外科的治療に次ぐ第三の治療法を紹介した。その治療法とは、飼い主により手軽に症状を軽減できるサプリメントであるエステル型脂肪酸複合体 esterified fatty acid complex (EFAC) の塗布である。この紹介記事以降、演者への問い合わせが多く、小動物臨床医の先生方が、猫の難治性歯肉口内炎の治療

に大変苦慮され、また、このEFACに大変興味をもたれていることを感じた。そこで、今回の「岐阜大学臨床セミナー」では、猫の難治性歯肉口内炎に対する演者の治療方針を示すとともに、EFACと全臼歯抜歯の手術法について講演する。そして、本誌面では前述したEFACの記事を再編集したものを中心に掲載する。

猫の難治性歯肉口内炎の治療方針

猫の難治性歯肉口内炎に対する演者の治療方針を図2に示した。まずは通常の歯科治療による口腔内の衛生管理を行い、その後、歯肉口内炎が良化しなければ、EFACの塗布を行う。これで良化がみられない場合に全臼歯抜歯を行うが、文献的には全臼歯抜歯で効果がみられるものは約70%で、残りの30%は全顎抜歯の適応となる。まだ症例数が少なく、断定的なことはいえないが、演者は全臼歯抜歯にEFACの塗布を併用することで、この70%をさらに上げることが期待できると考えている。

EFACとは

エステル型の脂肪酸複合体であるEFACは、米国の特許を取得したサプリメント製品である。米国では医療費、医薬品は高額となるため、サプリメントとして製品化するほうが都合がよいようである。EFACの紹介では、その作用は「細胞膜、とくに白血球の細胞膜に取り込ま